



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

オンラインスタディツアー2021 CATAの発表について

公益財団法人結核予防会国際部副部長
総合健診推進センター国際県支部副部長 柳 亮一郎

令和3年12月16日(木)日本時間13:00より公益財団法人結核予防会主催で、オンラインスタディツアーがZoomにて開催されました。そのなかで、カンボジア結核予防会(CATA)所長代理のモンキー先生が「COVID-19とカンボジアの結核対策」と題する発言をしました(写真1)。

発言は、COVID-19の影響を受け活動が停滞する期間もあったが、現在活動が徐々に再開されているとの内容でした。発言に続き、婦人会より寄付金の贈呈を受けました(写真2)。モンキー先生から次の御礼のスピーチを頂きました。

本日は発言のため貴重な時間を頂きましてありがとうございました。CATAは2003年の設立以来、結核予防会(JATA)並びに婦人会からの支援を受け、カンボジアの結核対策を推進してきました。現在、2013年に寄贈頂きました検診車が老朽化のため活動に活用できない状態となっております。カンボジアの結核対策へ貢献するためもう一度検診車の寄贈をお願い致します。これからも引き続きJATA・婦人会とCATAのよい関係が継続することを祈念致します。



写真1 モンキー所長代理の発表



写真2 贈呈の様子(左が筆者)

「第52回肺の健康世界会議」「秩父宮妃記念結核予防世界賞」授賞式おことば

この度、秩父宮妃記念結核予防世界賞を贈呈できますことを、大変うれしく思います。また、ユニオンには、公益財団法人結核予防会の活動に長年にわたり協力いただき、感謝いたします。

本年の受賞者であるクヌート・レンロート教授は、世界保健機関（WHO）が結核について重要な政策を策定する際に、社会医学に基づいて、14年間にわたり指導力を発揮してこられました。そして現在は、カロリンスカ研究所で、研究や教育に携わっておられます。

レンロート教授は、社会医学に関して数多くの科学研究論文を発表してこられました。様々なコミュニティにおいて、社会的経済的条件の違いが健康や疾病とどのように関連しているかを分析した上で、どうすれば人々の苦しみを減らすことができるのかを検討しておられます。レンロート教授のご尽力により、多くの国々において、保健システムの改善や、結核を減少させるための政策・戦略が推進され、世界結核終息戦略の策定とその実行が進みました。このような大変優れた業績につつまして、心から敬意を表したいと思います。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の大流行は、私たち皆にとって大きな課題です。レンロート教授がこれからも健やかに過ごされ、引き続き社会的に立場の弱い人々のために結核対策を進め、世界中の若い研究者や政策関係者を育成し、地球規模での保健に関わる課題の解決に貢献されることを期待しております。

結核予防会とユニオンを代表して、クヌート・レンロート教授に、2021年秩父宮妃記念結核予防世界賞を贈呈いたします。

おめでとうございます。

2021年10月19～22日にオンラインで開催された第52回肺の健康世界会議において、「秩父宮妃記念結核予防世界賞」の授与式が行われました。国際結核・肺疾患予防連合の名誉会員であられる秋篠宮皇嗣妃殿下がおことば（英文）を寄せられました。ここでは和訳にしています

(受賞者紹介)



クヌート ランロート氏は、社会医学を専門とする医師で、世界保健機構（WHO）において14年以上にわたり結核制圧のための多くの政策策定や研究事業に従事してきました。特にUHCやSDGsを含むWHOの主要な政策策定、Global TB ReportやWHOの結核対策に関するガイドラインの作成において重要な役割を果たし、世界の結核対策に貢献しました。現在はスウェーデンのカロリンスカ大学において、WHOや他の研究機関等と協同し、脆弱な立場にある人々の保健に対する世界的なネットワークを主導するとともに、後進の指導にも尽力しています。

(ご挨拶概要)

秋篠宮皇嗣妃殿下、ありがとうございます。

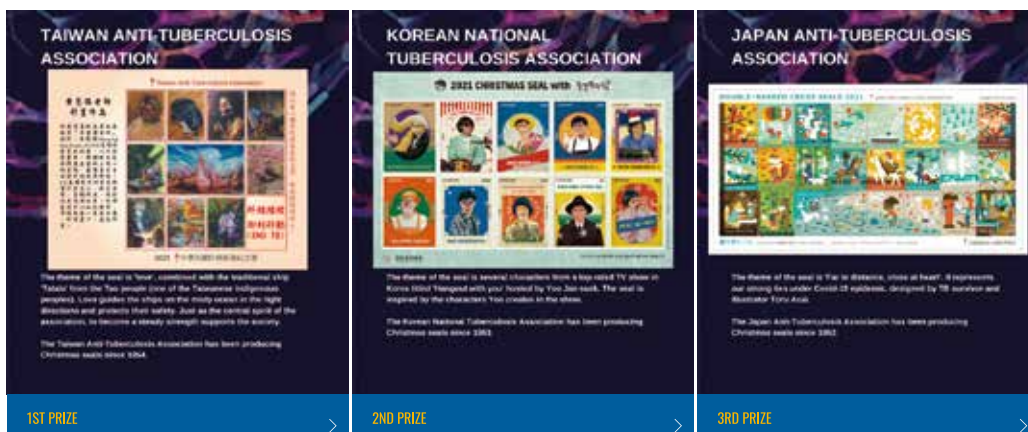
また、結核予防会、ユニオンの皆さま、秩父宮妃記念結核予防世界賞の受賞を大変光栄に思います。結核との世界的な戦いへの私のささやかな貢献を認めて頂き恐縮しておりますが、今回の受賞は、世界保健機関、各国結核プログラム、その他国内および国際パートナー団体、そして世界中の研究者のチームワークの賜物です。

今後もこれらの活動が継続していくことを楽しみにしています。私自身は最善を尽くし、引き続き、カロリンスカ大学の公衆衛生研究所及び新設されたWHO協力センターでもある結核研究センターでの研究と教育を通じて貢献する所存です。

ありがとうございました。

THE 2021 CHRISTMAS SEALS CONTEST

「第52回肺の健康世界会議」で展示された世界のクリスマスシール（複十字シール）コンテストでは、日本が第3位となりました。



季節のお便り 「花梨物語」

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

この欄では、これまで結核予防活動に関する話題を扱ってきました。今回は赤坂御用地内の自然を取り上げることになりました。外出を控える期間が続く中で、自然にふれることが増え、身近な樹木や草花に目を向けるようになり、様々な気づきがありましたので、私が撮った写真とともにお伝えしたいと思います。

～ 新しい年を迎えて ～



今年1月初旬に咲いたロウバイ

休みの日に、宮様と一緒に一時間ほど御用地内を散策しているとき、移りゆく季節を感じます。新しい年を迎えてから間もないある日、小道を歩いていると、白梅、紅梅の花に先駆けて、黄色の小花をいくつも咲かせている木がありました。咲いていたのは、ロウバイ（蠟梅）の花です。愛らしい花を寒さや風から守るかのように、去年の葉がたくさん残っていました。

ロウバイは中国原産で、その名前は中国語の「蠟梅（ラーメイン）」の日本語読みだそうです。「唐梅」と呼ばれることもあります。名前の通りバラ科の「梅」の仲間だと思っていましたが、調べてみるとクスノキ科でした。花の色や光沢が蜜蠟を連想させ、陰暦の12月（別名「臘月」）に咲くことと、花の香りが梅に似ていることから、この名があるようです。写真のロウバイも、花弁は蠟細工のように透き通った黄色で、近づくとよい香りがしました。

また、宮邸の近くにウンナンロウバイ（雲南蠟梅）の木があることを、宮様が教えて下さいました。高い枝に花をつけるため、冬の青空を見上げたときに、咲いていることに気がつきます。

～ 花梨の木を訪ねて ～

散歩道の途中にあるお茶屋の庭跡には、数本の花梨の木々が立っています。最も古い木は、樹齢が90年程で高さ7メートルを超えています。幹肌には、雲状の模様があり、趣のあるこの幹は、私たち二人が両手をつなぐと余裕をもって囲めるくらいの太さです。以前は、秋が深まると、よく子どもたちと一緒に、黄色く熟れた実がたわわになっているのを見に行きました。最近は、春先に若葉を茂らせ、薄いピンク色に咲く花を見るのが好きで、その時期にも度々会いに行きます。



昨年3月中旬に咲いた花梨

離れたところから見ると花が咲いているのが余り目立たないために、気づかないこともあります。今年は、早めに新芽や蕾があるかどうかを確かめ、花が開くのを心待ちにしたいと思います。

2020年の夏、COVID-19が拡大していく中、花梨の木の上を白雲が通り過ぎていく景色を写真に撮りました。



この写真を、感染症対策に取り組む医療や教育の関係者に、感謝の気持ちを書き添えてお届けしました。若葉が茂る木々と空に浮かぶハートの形をした雲を気に入ってくださる方、疲れたときにこの写真を見てリラックスできるように部屋のボードに飾ってくださった方などがいらっしゃいました。青空の下の花梨の木が、遠く離れた人にも寄り添っているようで、嬉しく思いました。



昨年6月下旬の花梨の実

初夏には、枝に葉が茂り、青々とした実がつくようになります。葉の色と実の色が似ているので、年によっては、実っていることに気づかずにはいたこともありました。コロナ禍で外出する機会が少なくなつてから、健康の維持のために御用地内を歩くことが増え、花梨の実が時をかけて秋までに大きく成長し、色づいていく様子を観察することができました。



10月になると、花梨の実が次々と黄色く熟し、やがて落果します。

この花梨の熟れた実を籠に入れて、部屋や廊下のテーブルに置くと、甘い香りが広がっていきます。

事務所の廊下を通る職員も、花梨のよい香りに惹かれるようです。感染症対策のためにマスクをつけていると、周囲の匂いを感じにくくなりますが、花梨のしっかりとした香りは、私たちの心にまで届くようで、気持ちが和んできます。ずっしりと重い実は、ポリフェノールを豊富に含み、風邪の予防や、喉の痛みを鎮める効果があります。喉のために、花梨の実を薄切りにして砂糖漬けを作ったり、花梨の喉飴を求めたりする人もいます。

一昨年と昨年には、花梨の実でジャムを作りました。たくさんの実を薄切りにし、皮も種も全部お鍋に入れ、「おいしゅうな〜れ」とおまじないをしながら混ぜていると、周囲が甘い香りに包まれます。濾してから砂糖を加え、煮詰める過程でとろみがつき、透明な茜色になっていきます。

お世話になった方へ、このジャムをお送りしたところ、なぜとろみがつくのか、なぜ加熱すると赤くなるのかと不思議に思ったことを、お礼とともに綴ってくださいました。花梨の皮や芯を一緒に煮ると、林檎と同様に、ペクチンという成分が出て、とろみがつくようです。赤色に変化する理由についてはまだ答えがわからず、調べている途中です。また、「ジャム」というより「蜜」のようだとおっしゃる方もいて、今度は、「花梨の蜜」としゃれた名前と呼ぼうかと思っています。自然の恵みを通して、様々な対話が生まれ、とてもうれしい一連の出来事でした。



～ むすびに ～

長い時を刻んできた花梨の木は、春に緑の葉を茂らせ愛らしい花を咲かせ、私たちを楽しませてくれます。そして夏に実っていく青い実が、秋には香り高く熟し、その香りに心癒され、花梨の蜜で喉を潤します。

冷たい風が吹くときも、暑い日差しに照らされても、花梨の木が同じ場所に立ち続け、花が咲き実をつけることができたのは自然のもつ力であり、庭師の木の手入れによるものでもありましょう。自然の実りと、それに関わる人々を思いながら、この「花梨物語」を終わりにいたします。

(この原稿は、昨年暮れから今年1月にかけて執筆しました。)

令和3年度東北地区結核予防婦人団体幹部研修会報告

特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会
理事 佐々木 玲子



開催までの経過

2019年次期開催地と紹介されてから何度も会議を持ち「結核予防の周知と募金活動～複十字シールの活用について～」をテーマとしました。また、JA全農に農産物提供の依頼を始めました。

2020年新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の為延期、予定していた盛岡会場のキャンセル料が発生し、開催費負担となりました。これは準備してきた心のダメージに資金面での負担も押し掛かりました。

2021年「北海道・東北ブロック地域婦人団体研究大会と同じ市での開催ではつまらない」との他県からの意見もあり、民話のふるさと遠野開催と変更。芸能ししおどり、風の丘の物産販売。特に（公財）岩手県予防医学協会武内健一専務理事の講演を東北の皆様にご覧いただき、対面で話し合えるシンポジウムのテーマを企画しました。先輩諸姉が築いてきた結核予防婦人会を次世代につなげる努力と信頼しあえる地域の婦人会として更なる飛躍を目指すことを目的に開催を予定しましたが、書面開催となりました。

書面開催にあたって

書面開催用の資料には、①～④のアンケートを実施し、各県の回答を掲載しました。

①各県結核予防婦人団体としての複十字シール募金運動の普及・啓発への取組み

②複十字シールの活用例

③交付金の活用例

④結核予防会県支部との協力内容

以上の4項目のうち、①の回答文（抜粋）をご紹介します。

各県の報告

【青森県】 コロナ禍の為、募金活動ができない。結核予防婦人会研修会が書面研修会となり、普段見ない資料にも目を通すことができ、結核についての知識を少しでも知ってもらえる良い機会ができたと思っている。

【秋田県】 複十字シール募金運動は、秋田県結核予防婦人会の活動の基盤であり、総会で地区別目標額を決めて募金活動をしている。

【宮城県】 各地域の婦人会に「複十字シール募金を少なくとも1人1枚の募金」をお願いしています。駅前でチラシを一人ひとりに配布していますが、行動の制約も多く、普及・広報活動の限界を感じています。

【山形県】 会議や研修会等を開催した際に募金の呼びかけを行い、寄付を依頼している。コロナ禍により直接集まる機会が減り、呼び掛ける機会が減っている。結核に対する意識の低下に悩んでいる。

【福島県】 活発な複十字シール募金活動が県内各地で展開できるように、先立って行われる地区理事会にて活動方針を示し、各理事から会員へと周知している。

【岩手県】 「歳末たすけあい」などのイベントの際に複十字シール募金を行ったり、他の女性団体との合同会議の中で募金運動の趣旨を話すことで、他団体の協力をいた

だくなどの成果をあげている。

複十字シール募金額（2010～2020）

単位：円

年（和暦）	全国	東北6県
2010(H22)	314,652,049	37,033,306
2011(H23)	305,629,443	26,829,835
2012(H24)	297,601,933	32,627,394
2013(H25)	277,273,762	30,649,062
2014(H26)	242,300,163	30,760,868
2015(H27)	226,856,215	28,846,510
2016(H28)	211,503,303	28,307,761
2017(H29)	214,297,045	28,343,098
2018(H30)	201,010,308	26,272,855
2019(R1)	263,005,787	22,700,632
2020(R2)	181,736,480	21,858,978

研修を終えて

会員の結核に対する関心をさらに高め、多くの仲間を増やし、見識と行動力を高めながら重要なことを伝えていくことの大切さを再認識できました。🍅

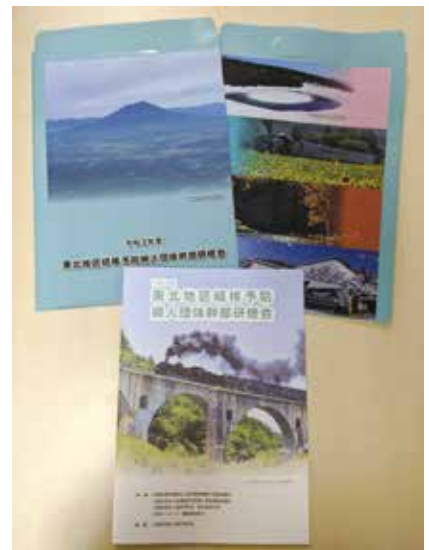


写真 研修会資料（下中央）と大会記念品 クリアファイルバッグ（上表面左、裏面右）

熊本県の複十字シール運動と結核予防啓発活動

熊本県健康を守る婦人の会
会長 荒木 ミドリ



結核予防全国大会開催延期

令和3年3月2日に、第72回結核予防全国大会が東京から配信の形で実施され、式典の最後に、公益財団法人熊本県総合保健センター（結核予防会熊本県支部）の副理事長（当時）岩谷典学様より次期開催県挨拶がありました。

熊本県で令和4年に全国の結核予防会と結核予防婦人会の皆さまをお迎えすることを楽しみにしておりましたが、昨年8月に令和4年度（令和5年の春）に延期されるという一報が届きました。

第何派がいつ来たのか分からなくなりましたが、いつかこの不安から解放されるという強い望みをもって活動を再開しています。

婦人会活動の現状

熊本県健康を守る婦人の会は、令和2年度からコロナ禍における婦人会活動を模索しつつ、各支部（熊本県には、八代、人吉・球磨、有明、山鹿、宇城、上益城、熊本市、天草、阿蘇、芦北・水俣の10支部があります）による活動にシフトしています。

全国結核予防婦人団体連絡協議会からの呼びかけにより、コロナ禍における感染拡大防止の活動について、情報提供を求められ、ホームページに掲載いたしました。

これ以外にも活動は行っていますが、当たり前のことをしているということで、写真などはなく、活動報告として提出していないことも多い状況です。

新型コロナウイルス感染症
感染拡大防止のための活動報告No.2

緊急事態宣言が解除されましたが、婦人会では、新型コロナウイルス感染症感染防止のためにできることはないかと検討しています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

＜熊本県健康を守る婦人の会 山鹿支部＞
山鹿支部には、八代、人吉・球磨、有明、山鹿、宇城、上益城、熊本市、天草、阿蘇、芦北・水俣の各支部があります。そこで、山鹿支部にある、熊本県の婦人会員が全員、マスクを作成し配布しました。

支那の張さん、池田さん、橋本さんの3人が、地域の個人輸入で買えるようマスク80枚を手作りで作成しました。各支部さんが個人輸入に手渡しなので自分と自分（インポート）が関係なかった、大変良かったです。

なお、「節用やまが」の6月号には写真入りで掲載されました（写真1、2）。

写真1 広報関係
写真2 手作りマスクを全員に配布の光景（11日撮影）

新型コロナウイルス感染症
感染拡大防止のための活動報告No.6

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の勢いは暑い季節になっても収まりません。婦人会では、COVID-19と上手に付き合うためにさまざまな活動を続けています。

そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

＜熊本県健康を守る婦人の会（高戸婦人会：上天草市龍ヶ岳町）＞
高戸婦人会では、アベノマスクが小さかったので、自分のマスクを手作りしている会員に呼びかけ、28名（計56枚）を集めて小学校に寄付しました。

また、一人暮らしの75歳以上高齢者にお赤飯を配りました。3名を避け、準備（写真1）とお赤飯作り（写真2）を2日に分りました。7月4日（土）に、80人の高齢者に会員10人で手分けして配りました（写真3、4）。

今までのように会員が集まることはできないので、人や会場の違いを試行錯誤しています。ただ、お赤飯を受け取ってくださった方の喜びや驚きなどを目の当たりにし、何かしたいという気持ちや次の活動に繋がることを確信しました。

写真1 初日は、5人が総菜とご飯、小豆の炊込みを行いました。（夜中晩御飯にも注意）
写真2 2日目、7時から8人が炊飯・パック詰めをしました。10時には配れるようにと、時間と闘いました！

新型コロナウイルス感染症
感染拡大防止のための活動報告No.7

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）との闘いは、例年より遅れている期間明け附近になっても、しばらく続きそうです。婦人会では、COVID-19と上手に付き合うためにさまざまな活動を実施しています。

そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

＜熊本県健康を守る婦人の会（人吉・球磨支部）＞
熊本県球磨郡あさぎり町は、7月4日から降り続いた豪雨により、甚大な被害が出ましたが、7月10日現在人的被害はなかったと報告されています。6月から公立小学校の一室が校舎が壊れるのを前に、マスクを作成（写真1）し、5つの小学校に配布しました。

緊急事態宣言発令中は、マスクを買いたくてもどこにも売っていない状況がありました。児童がマスクをしていない（マスクを持っていない）状況を知った会員から自発的にマスクを作ろうと始めました。

その時は、マスクに必要なゴム紐や布も不足していて、一から手すりすることになりました。ストッキングをゴム紐に代用したり、鋸切りは各家庭から持ち帰りで材料を集めました。3名を避け、研修室を4日間使いました。3～4人で午前10時から午後3時までの4時間活動しました。ミシンを借り、ゴムを通してなんとか950枚を完成させました。驚くほどの作業でしたが、子供たちの安全を思い、気持ちを書いた紙を貼りました。

写真1 あさぎり町の広報誌に掲載する会員の写真を掲載されました
<https://www.town.asagiri.lg.jp/cv/view/66/14181.html>

新型コロナウイルス感染症
感染拡大防止のための活動報告No.9

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対策は、地域の感染状況によってさまざまですが、婦人会では、COVID-19と上手に付き合うためにさまざまな活動を続けています。

そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

＜熊本県健康を守る婦人の会（上天草市教員木内婦人会）＞
上天草市松崎町にある教員木内婦人会では、3月20～23日にかけて、布でのマスク作りを行いました。

婦人会員10名は、布の裁断のために公民館に集まり、また縫製については、地元の縫製工場にご協力いただき、完成させました。

婦人会員である奥様が、縫製会場として工場のスペースを提供していただき、またワイシャツ生地の断切れとゴムひももすべて無償提供していただいたものを活用しました。

出来上がったマスクは、和光園介護老人ホームに30枚、特別介護老人ホームひかりの園大石原に20枚、教員木小学校生徒に28枚、先生に13枚、そして婦人会員全員に67枚の合計158枚を届けました。ワイシャツ生地で作成したマスクは皆さんに好評でした。

写真 地元縫製工場での作業の様子

掲載報告書No.2, 6, 7, 9（抜粋）

行政への働きかけ



写真 上天草市長表敬訪問
(令和2年10月5日)

上記写真は以前のものですが、令和3年にも上天草市役所を訪問し、複十字シール運動継続をお願いしました。

一般社団法人日本善行会から病院ボランティア活動を善行活動として表彰していただきました。手を取り合って、難しい時期を乗り切っていこうと頑張っています。

地域の課題を見つめ、新しい婦人会活動を考えるよいチャンスとなりました。皆さん一緒に進んでまいりましょう！🍷

婦人会の行事のオンライン化

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
会長 木下 幸子



コロナ禍の活動について

令和3年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に翻弄される一年でした。2月の第25回結核予防関係婦人団体中央講習会は、1月になって式典などを省き、オンラインによる講義を半日受けるプログラムに切り替えられました。対面を希望する受講生もありましたが、オンラインによって受講を検討した会員もいたと聞いています。

人と接することで生まれること、新しいツールによって活動の幅を広げることができたこと、ひきこもごもの一年でした。

令和3年度定期社員総会

結核予防全国大会は、熊本での開催が中止となり、東京を拠点にオンラインと現地をつなぐハイブリッド開催となりました。

全国大会で、婦人会の皆さまにお会いし、定期社員総会を実施しますが、今回は、書面決議とさせていただきます。

令和4年の3月の全国大会も東京オンライン開催になり、2年連続で、定期社員総会を書面決議にすることを決断しました。多くの婦人会員が、いろいろな形態で、オンライン会議に参加しています。

私も地域の公共施設の事務所のパソコンに詳しい方に手伝ってもらいながら、オンライン会議に出ています。すべての方が同じ環境になるまでには、もう少し時間とお金が必要になると思いますが、

新しいことへのチャレンジは、いくつになっても楽しいことです。

緊張の第2回理事会

婦人会事務局より、毎年11月下旬に開催している理事会について、ハイブリット開催をしたいという申し入れがありました。

どうしても都合がつかない理事もいらっしゃいますが、感染者数の多い東京に出張しづらいという理事もいらっしゃいます。

そこで、今回の理事会では、事務局のある東京の会議室に10名が参集し、オンラインでの参加3名の理事となりました。

リハーサルも重ね、事務局が準備を整えてくれましたが、本番では、途中で回線が切れたり、声が聞き取れなかったり、四苦八苦する場面がありました（写真1）。



写真1 参加した理事たち

スタディツアー2021

2019年12月のカンボジアスタディツアーを最後に、海外への渡航制限が続き、2年連続でスタディツアーは中止となりました。

そこで、過去にスタディツアー参加者から、このツアーの意義や婦人会活動にどのような変化が生まれたかなど、次世代につなぐためのオンラインツアーが企画されました。

私も2017年にカンボジアに直接出向いて、カンボジア保健大臣に会うなど、経験しました。そこで「ワンコインワンユニフォーム募金」というものを始めました。これは、現地のヘルスポランティアさんが、活動するときに着用するユニフォームを白いポロシャツに「結核をなくす活動をしている」ことをクメール語と英語で記載し、プレゼントしています。この活動は現在も続いています。私たち婦人会の活動でも着用して一体感が生まれています。

今回は、国際部の柳副部長が冒頭カンボジア結核予防会モンキー所長代理の発表を報告されているので、次のページで簡単ですが誌上報告いたします（写真2）。🐼



写真2 総合司会の結核研究所対策支援部副部長永田容子さん

オンラインスタディツアー2021

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
会長 木下 幸子



理事長挨拶

令和3年12月16日当日は、ビデオメッセージとなりましたが、結核対策スタディツアーの歴史についてご説明をいただきました。

先人の婦人会員は、現地で見聞きすることにより、これまでの他人事であった国際協力を身近なものとしてくださったことを知りました。また、コロナ禍であっても複十字シール運動は、国際協力の一助として、継続すべきことなど、示唆に富む内容でした。

岡田先生の講義

結核予防会国際部長の岡田先生（写真1）からは、カンボジアが2021年のWHO（世界保健機関）の高まん延国リストから卒業したというご報告がありました。

専門家のプロジェクト20年前からですが、その後半を婦人会はツアーという形で視察してきました。最後のほうには、健診センターも登場し、感染症だけではなく、慢性疾患にまで取り組むカンボジアの勢いを見てきたのです。

WHOのリストから外れたというものの、新たなパイロット事業として、結核診断に胸部X線検査を実施し、コロナでもおなじみになったPCR検査（遺伝子検査）を利用するなど、大きな転換点を迎えています。これから有病率調査を実施する計画もあり、まだまだカンボジアの結核を注視していく必要を学ぶことができました。



写真1 発表される岡田部長

ツアー参加者からの発表

今回は4人の方に発表していただきました。最初は、宮崎県健康増進婦人の会前会長の谷口由美繪さんです（写真2右上）。谷口さんは、ミャンマーとカンボジアのツアーに参加し、その都度会員に海外の結核の現状を伝えてきました。また、縫製工場などで働く現地の女性のパワーを見て、女性が家族や地域の健康を守るのだと確信したと力強く発表されました。



写真2 発表者のみなさん

続いて、山口県結核予防婦人会事務局長の平野愛子さんです（写真2左下）。平野さんは、漫然と行っていた募金活動がどのように活かされているのか現地を見たことを出前講座・イベント出展・事務所のある会館での展示を通じ、発信し続けました。婦人会活動の原動

力になっていると発表されました。

3番目は、北海道結核予防会看護科長の池田千聖子さん（写真2右下）です。池田さんは、支部の立場で婦人会活動を支援していただいているのですが、ツアーを通じて知り合った他県の婦人会員との横のつながりを大事にしているところを発表いただきました。コロナ禍でやはりさまざまな連携が大切になることを身にしみて感じていただけたら、婦人会活動の広がりの可能性を実感しました。

最後は宮崎県立看護大学看護研究・研修センター専門主幹の木添茂子さんです（写真3）。木添さんは学内行事と重なりビデオメッセージとなりましたが、保健師としての経験をもとに看護を目指す学生に結核の現状を知らせ、また複十字シール募金が毎年続くように啓発を続けているという報告でした。



写真3 木添専門主幹（右下）

最後は、国際部付部長の小野崎先生から、ツアーの企画の段階からかかわってこられた経緯や婦人会への提言をまとめていただきました。

短い時間ではありましたが、自分たちでできる国際協力を考えるよい機会となりました。🍀

SDGsについて正しい知識を持ちましょう

東都大学沼津ヒューマンケア学部
公衆衛生学教授 松田 正己



1. SDGsの歴史

「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」のルーツは、1961年の米国のケネディ大統領が提案した「国連開発の10年」にあり、経済格差の是正を求めました。その後、1972年の国連の「人間環境宣言」を経て、1980年に、国連自然保護連合 (IUCN) などから「持続可能な開発」の考え方が示され、日本の環境基本法や、気候変動対策枠組み条約の「京都議定書」など、環境問題の取り組みに生かされています。2000年には「国連ミレニアム宣言」が採択され、「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」、2015年には「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」が定められました。

2. SDGsに取り組むに際して留意すべきこと

1)SDGsは、「人権」と「環境」という2つの側面からなります。環境のみならず、「人権」が実はSDGsの大きな柱であることを理

解しましょう。日本の国内法は人権について多くの国際条約との間に整合性を取ることが必要とされています。

2)SDGsが新しくもたらしたものは何か？ それは、企業やNGOといった多様なアクター（行為主体）による実践を促し、情報交流を盛んにし、現場も巻き込みつつあることです。ただし、SDGsがめざす「誰一人取り残さない社会」を絵空事にしないためには、地域住民、特に社会的弱者のニーズに十分配慮し、地域での取り組みは「住民のため」であるという理念を忘れないことが重要です。

SDGsの目標の中で、共通するキーワードは「レジリエンス」です。本来の意味は「強靱」よりも、対応力、回復力、適応力などが正確であり、このキーワードを通し、SDGsの目標が幅広いことが理解できます（以下参照）。

目標1. 貧困 貧困層や脆弱な状況にある人々の回復力（レジリエンス）を構築し……

目標2. 飢餓 適応力のある（レジリエント）農業を実践する

目標9. 産業 持続可能かつ回復力、適応性（レジリエント）のあ

るインフラを開発する

目標11. まちづくり 災害に対する回復力、適応力（レジリエンス）を目指す総合的政策

目標13. 気候変動 気候関連災害や自然災害に対する回復力、適応力（レジリエンス）

目標14. 海の豊かさ 対応力、適応力（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い……

3. SDGsを通して、社会保障、公衆衛生の充実を

SDGsの諸目標は、憲法や社会法（社会保障法、医事・公衆衛生法、環境法、消費者法、教育法などを含む）の観点から見ると、より明らかになります（表）。SDGsを通し、憲法上の社会権と、その制度化である社会法の充実を図り、社会的弱者に対して国によるケアが拡充されることが望めます。🐱

文献

松田正己、大林雅之、増田一世、岩隈道洋、江口晶子. 我が国のSDGsの生存科学的課題—公衆衛生、国際保健、生命倫理、障害、地域保健、法学からの考察—。生存科学 2021 : 32 ; 47-71.

表 SDGsと日本の社会権・社会法との対応

SDGsの目標	対応する憲法	対応する社会法	具体的な法令
1 貧困、2 飢餓、3 すべての人に健康と福祉、6 安全な水とトイレ	生存権	社会保障法	生活保護法、健康増進法、各保健・福祉・支援法等、各疾病対策法
4 質の高い教育	教育を受ける権利	教育法	教育基本法、学校教育法、社会教育法
5 ジェンダー平等	平等権、労働基本法	労働法	労働基準法、男女雇用機会均等法
7 クリーンエネルギー、11 まちづくり、12 つくる責任、つかう責任、13 気候変動、14 海の豊かさ、15 陸の豊かさ	環境権	環境法	環境基本法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、土壌汚染対策法、廃棄物処理法、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、都市計画法、建築基準法
8 働きがいも経済成長も	労働基本権	労働法	労働基準法・労働契約法

(岩隈道洋、SDGsの社会権的な基礎、文献p65を簡略化)

私がやっているSDGs

埼玉医科大学社会医学
教授 亀井美登里



はじめに

今年1月15日午後1時10分頃（日本時間）噴火したトンガの海底火山「フンガトンガ・フンガハーパイ」の大噴火が発災。噴煙は半径260キロに広がり、日本など世界各地に津波をもたらした。これまでも大規模な火山噴火は、地球規模で一時的に気候を変える一因となってきた。今後地球全体にどのような影響を及ぼすのだろうか。

SDGs(持続可能な開発目標)とは

SDGsの17の目標は、以下のよう
に5つのキーワードで分けて考える
こともできる。①People（人間）：
すべての人が平等で健康な環境の
もと、生きていくこと。➡目標1貧
困をなくそう、目標2飢餓をゼロに、
目標3すべての人に健康と福祉を、
目標4質の高い教育をみんなに、
目標5ジェンダー平等を実現しよう、
目標6安全な水とトイレを世界中
に。②Prosperity（豊かさ）：すべ
ての人が豊かで満たされた生活が
できること。➡目標7エネルギーを
みんなにそしてクリーンに、目標8
働きがいも経済成長も、目標9産
業と技術革新の基盤をつくろう、
目標10人と国の不平等をなくそう、
目標11住み続けられるまちづくりを。
③Planet（地球）：今と未来のため
に、持続可能な消費・生産、天然
資源の持続可能な管理や気候変動
への対応など、地球環境を守るこ
と。➡目標12つくる責任つかう責任、

目標13気候変動に具体的な対策を、
目標14海の豊かさを守ろう、目標15
陸の豊かさも守ろう。④Peace（平
和）：恐怖と暴力がない、平和で公
正な社会を育てること。➡目標16
平和と公正をすべての人に。⑤
Partnership（パートナーシップ）：
すべての人が「持続可能な開発の
ためのグローバル・パートナーシ
ップ」を通じて協力し合うこと。➡
目標17パートナーシップで目標を達成
しよう。17の目標はどれもつながり
合っていて、ひとつのアクションが
複数の目標にかかわっている。どん
な“ものさし”をもって、どんなア
クションをするかは、人それぞれ自
由なのだ。

食べること

食べることは、生きる基本。食を
取り巻く状況は日々目まぐるしく変
わっている。未来の食を考えるには、
現状を知ることが大切だ。地球で
今、何が起きているのだろうか。
①世界77億人の10人に1人が飢餓
に直面し、日本では子どもの7人に
1人が相対的貧困（所得水準が国
民の所得平均の半分に届かないこ
と）で、子どもの慢性的な空腹や
十分な教育がなされないなど危惧
されている。②世界の穀物生産量
の3分の1が家畜の飼料に消費さ
れている。世界の穀物生産量は年
間約27億トン以上で、150億人上
を賄える穀物量があるのに、なぜ
飢餓が起きているのか？それは、穀
物生産量の36%が家畜の飼料に
なっているから。さらに21%はバイ

オマスエネルギーとなり、食用とし
ての消費は43%しかない。③世界
の食品ロスは年間13億トン。その
うち、日本の食品ロスは年間600万
トンと東京ドーム5つ分に相当す
る量。国民一人当たりに換算すると
一日お茶碗一杯分の食品を廃棄し
ていることになる。実に、凄まじい
状況のなかに私たちの食生活は晒
されている。

自分ができること

地球に暮らす人間として何がで
きるのだろうか。三日坊主で整理
下手、のんきな性分だが、一日お
茶碗一杯分の食品ロスをなくすよ
う努めることはできるかもしれない。
そのためには食材を買い過ぎ
ない、買った鮮度の良いうちに
消費してしまう、できるだけ使い
切ってしまうなどだろうか。難し
いことではない。このような暮ら
しが自ずと心地よく感じるよう
になるといい。

身の丈にあった生活

老子は「足るを知る者は富む」と記した。自分にとって本当に必要なものは何かを知り、不必要なものを取り除いていく。必要不可欠で身の丈にあった生活にこそ、満ち足りた毎日、精神の豊かさにつながるヒントがある。養老孟司先生は「居心地の悪いところから立ち去ると、居心地のいいところに自然に収まる」と言葉にされている。この実践こそSDGsに繋がるのではないかと🍷

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



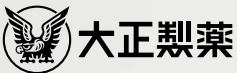
ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌にやさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

あなたの、健康のそばに。



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。